

H T C

HITACHI TECHNICAL COLLEGE

NEWS ネット

HITACHI
Inspire the Next

日工専同窓会報
2005年 5月27日
第10号

同窓会の更なる発展と 活動の強化を！



2004年度
同窓会本部長
(戸塚地区) 名古屋喜則

2004年度同窓会本部長を無事、務めることができました。前年度からの引継ぎ事項でもある特別会員支部への活動支援と同窓会45周年の節目にあたっては、統合後のこの5年間の活動についての座談会を開催し、本会報10号に記事を掲載することができました。この座談会の実現は、同窓会運営に長年ご尽力頂き、本座談会を最後にご退任される石原政男常任理事の熱意とご尽力の賜物です。ここに感謝申し上げます。

さて、本同窓会は会員相互の交流・連携強化を図り、一致団結して社業発展に寄与することが、活動の主な目的ではありますが、昨今の日立グループの組織再編、

分社化等で会員の所在把握からして、その困難さに拍車がかかっております。また、個人情報保護法案の施行により、名簿作成・配布もままならない事態になっております。加えて、日工専在校生は年々減少し、新入会員数が減る一方、退職に伴う特別会員支部対象者の急増が見込まれ、必然的に本同窓会は高齢化集団になりつつあります。同窓会発足当初とは全く異なる状況が、表面化しつつあります。このような中で、今後の課題でもあり且つ、次年度への申し送り事項ともなりますが、高齢化なりのメリットや各支部の活動の温度差に応じた新たな取り組みで、支部活動および本部と支部との交流・連携のあり方が検討され、会員各位の知恵で結果、さらに意義有る同窓会活動となることを期待いたします。

今後は、支部として本部活動を支援する立場になりますが、今後の同窓会活動が益々発展し、盛り上がることを祈念致します。

最後になりましたが、日頃から同窓会活動へのご理解とご支援を頂いております学院長はじめとする学院、本部理事各位に感謝申し上げます。

「MOTTAINAI」運動と日立の訓え ～常任理事退任のご挨拶にかえて～



常任理事 石原政男

私は平成12年から16年まで5年間、新しく統合発足した日工専同窓会の常任理事として、OBの立場から同窓会活動に助言をさせて頂きました。大したお役にたたなく、かえって特別会員支部立ち上げに多大のご支援を頂き、感謝して

ります。

さて、平成17年2月、京都議定書発効記念行事に出席された、地球環境分野で初のノーベル平和賞を受賞されたワンガリ・マータイ（ケニア国の副環境相）さんが度々話された日本語「もったない」が「MOTTAINAI」という世界語になりました。そして「MOTTAINAI」運動が世界各地の環境改善運動のシンボルとなってきております。

私は、平成7年に中国内モンゴルでの沙漠緑化ボランテ

アに参画した経験がありますので、大いにこの運動に共感を覚えております。

私が日立工場に入社した昭和28年は、まだ戦後の物資のない時代でもありましたが、「もったない、物を大切に」という躰は、工場での生活の基本として厳しく教育されました。メモ用紙の活用、社内便封筒は使用済み封筒に宛て紙をつけ、スタンプやインキ蓋は開けておかない、鉛筆は削って使い切る、電灯はこまめに消す等々です。

日立精神（日立清貧の訓え）に「先憂後楽」「ムリ・ムダ・ムラ排除」があります。すべて「MOTTAINAI」につながります。

同窓生各位も折角、学院で学んだことを自分の職務、自己改革に自分を生かさないと「もったない」と思っています。

あと5年で同窓会は50周年を迎え、同時に日立製作所も百周年となります。「MOTTAINAI」基金なるものを計画され、地球環境改善に同窓会諸君の知恵を結集したプロジェクトXを立ち上げてください。私の願いと夢です。これからも学院と同窓会の益々の発展を祈念致します。

日工専同窓会創立45周年記念 座談会開催

45周年を機に、本部役員、近隣支部長にお集まり頂き座談会を開催致しました。支部活動の現状や要望など様々なご意見を頂くことができましたので、その一端を紹介致します。



4/28 茨城地区

- ・2000年(平成12年)、第41期生98名で新日工専がスタートしたが、2005年(平成17年)は、本科生61名。学院生は近年、減少傾向にある。
- ・在校生に限らず同窓会への参加意欲向上への啓蒙、取組みが重要である。
- ・同窓会活動は会員全員の意識と同窓会の目的の共有感が不可欠であり、従来のやり方を踏襲するだけでなく、たえず会員の意識をベースに共感できる効率的な活動を構築して欲しい。
- ・本部と各支部とはメール主体で連絡してきたが、本部、支部間はまだもっと密接な交流の必要性を実感した。
- ・会費の徴収は、本部、支部とも非常に大変。
- ・本部会費以外に支部会費で歓迎会など活動を積極的に行なっている。
- ・支部運営の主体は中堅会員中心だが一年交代でなく、2年交代で(実のある活動となるように運営)している。
- ・支部会員は、同期入社や職場内ではよく交流できているが支部全体の交流はなかなか難しい。
- ・本部活動は支部内ではよく理解されていない。本部と支部のつながりには工夫が必要。

・支部長は、本人が後任を決めない限り継続している。職場や建屋毎に地区幹事をおき行事を行なっている。総会、暑気払い、忘年会、ゴルフ大会など開催。全国支部長会議は、予算時期で出席が難しい。

・転出、転入で会員の把握が難しい。学院のHP閲覧をPRすることで情報の共有を図る。

・会費は、支部取り纏めでなく、本人から直接納入することを提案したい。

・本部の一年交代には無理がある。現在の学院のある茨城地区のグループで担当したほうが良い。

・会員名簿の発行、メンテナンスは基準を定め個人情報保護法に抵触しない取組みが必要。

・全国支部長会議は、支部長が集まる場として意義はある。会計報告、会則改訂などはメールやHPによる電子投票が良い。



《茨城地区》

開催日時：

2005年4月28日(金)13:00~15:00

開催場所：

(AS) 日立オートモティブシステム
大会議室

出席者：

(情制シ) 溝口和雄 支部長

(と) 照沼隆 支部長

(AS) 生田目晴男 支部長(平成17年度)

(AS) 柳田秀男 支部長(平成16年度)

(AS) 井上文夫 会長(平成17年度)

(AS) 湖口秀和本部役員(総務)

(日立HT) 出口忠 支部長

司会 石原政男 常任理事

学院から 合田 教務課主任

同窓会本部 伊藤一夫 副会長

(広報担当) 渡辺英夫 本部役員





5/16 神奈川地区

- ・2005年(平成17年)は、本科生61名。学院生は近年、減少傾向にある。
- ・学院が統合されて、5年目、同窓会本部も統一されてきていますが、同窓会員の把握、会費の納入、全国支部長会議のありかたなど、見直しの時期にきています。
- ・定年後の会員(特別会員支部)の同窓会活動全般に対しての関わり、協力についても検討の時期にきています。
- ・茨城地区と比較して京浜地区の支部活動は、低調。
- ・支部の総会は、年1回実施していきたい。
- ・一万人台の同窓会を纏めることは大変。全国支部長会議も含めて今後どのように運営していくか、各支部単位で身近な地区ごとの集まりに力をいれて支援していくことも大切。
- ・HPは、会員へパスワードを配賦してインターネット上で公開して行けると良い。
- ・先輩の力によっては、支部活動が非常にやり易い。
- ・支部内で(京専)と(茨専)で分れて同窓会活動を行っていたことがある。
- ・掌握する複数の事業所が離れており、支部で纏まった活動が難しい面がある。
- ・新採の関係で入校生が激減している。



- ・支部からの会費納入が機能していない。個人毎の納入管理が必要。
- ・学院内に名簿を整備し、特別会員支部の協力を仰ぎ、個人別会費管理を行なえたら良い。
- ・会員の個人コードを設定し、会費管理したら良い。
- ・全国支部長会議での報告、承認事項は、別途、全国支部長に図り、集まった会議では各テーマごとの討論会分科会や、基調講演、各支部からの活動内容に時間をさいたらよい。
- ・懇親会は、卒期毎や世代間の交流など考慮し、開催毎に幹事を設定して行なうのも良い。支部長会議より、(一般会員も対象とする)総会的なものも良い。
- ・行事については近隣支部の合同開催による講演会や会員を講師にした講演会、勉強会も良い。
- ・日専校は、HPを一般公開している。日工専もしくは同窓会で同様にできたら良い。

《京浜地区》

開催日時：

2005年5月16日(月)17:30~19:30

開催場所：

(日立COM)労働会館 大会議室

出席者：

(ESD) 佐藤祐一 支部長
 (ソフト) 及川憲男 支部長
 (RSD) 武藤義章 支部長
 司会 石原政男 常任理事
 学院から 合田 教務課主任
 同窓会本部 名古屋喜則 会長
 (広報担当) 渡辺英夫 本部役員

- ・支部会員は140名いるが活動に山、谷がある。現在、目立った支部活動はできていない。
- ・支部組織が決まっていなく、主な活動は無い。

ざっくりばらんに意見を伺い、発言支部を特定せずにざっくりばらんに掲載させて頂きました。色々な問題点、提案は、今後の同窓会活動に引継いで改善を図っていかれたらと思います。多忙なところ、ご出席頂いた皆様に感謝申し上げます。

支部活動紹介

(つち)支部では、2004年11月20日(土)ピュアネスアリーナにおいてソフトバレーボール大会を開催しました。大会は、赤間日工専OB会々長の挨拶に始まり、参加者こそ昨年に比べて少なくなかったものの、和気あいあいとした雰囲気の中、珍プレー、好プレーありで非常に楽しく、白熱した大会となりました。



運動のあとは、
バーベキュー!



汗を流したあとのバーベキューでは、ビールを飲みながら参加者同士の親睦を深め、ソフトバレーボールの優勝チームへは、高級霜降り牛肉を振舞うなど、楽しいひとときを過ごしました。_(つち)HIC社電力 宮下正己 記



日工専OB会主催 (HIC)協賛 特別公演会開催!

(つち)支部では、去る2月16日(水)大会議室に於いて増田明美さんによる特別講演会を開催致しました。テーマ「おしゃべり散歩道」と題し、ご自身の恋愛秘話から現役女子マラソン選手の丸秘エピソード、そして



健康管理に対する普段の心掛け等、大変貴重なお話しを頂きました。会場には、100名以上の方が詰めかけ、椅子が足りなくなる程の大盛況でした。来られた方全員がそれぞれに楽しい時間を過ごされたと思います。ご講演後、新婚の増田さんへ感謝の気持ちを込めて花束贈呈を行い、会場全員で祝福することが出来ました。なお、当日は震度5弱の地震に見舞われ交通機関の影響も心配されましたが、何事もなく無事に幕を閉じる事が出来ました。

_(つち)HIC社電力 宮下正己 記

「おしゃべり散歩道」



新婚の増田明美さん

シリーズ支部訪問記 第1回 「日立支部訪問」

平成16年度での日工専同窓会は、76支部ほどあります。本部から各支部に出向き、ユニークな支部活動をざっばらんに取材し、みなさまにご紹介したいと思います。第1回目は「日立事業所(日)」を訪問しました。



インタビューに応じて話される小野田支部長

取材日：平成17年5月10日

取材者：石原常任理事

ご面会いただいたのは、平成17年度支部長の小野田満さん（茨専26期）です。



年3回発行されている会報

「支部の中でも、最大の支部」

質問：(日)は、支部会員数が531名という、支部のなかでも最大の支部です。運営には大変苦労されていると思います。どのように運営されていますか？

小野田さん：支部の運営については、支部全体を8地区に分け、会員名簿の把握から年会費（¥2000）まで、地区幹事をお願いしています。

質問：(日)は日工専の地元ということで、何か取り組みはありますか？

小野田さん：(日)は日工専と同じ地域ということで創立以来、学院と深い関係があります。毎年6月の支部総会には、学院から学院長や教務課の方を来賓としてお招きしております。支部総会は、学院の様子を伺えるよい機会となっています。また、この支部総会は、卒業したばかりの新同窓会員の歓迎会もかねております。

「5年後は、同窓会50周年」

質問：現在、同窓会本部は、主な支部持ち回りで担当していますが、(日)には5年後に当番が巡ってきます。その年は、ちょうど同窓会50周年にも当たりますが。

小野田さん：5年後は50周年記念行事当番支部ということで、今年の支部総会には、本部同窓会々長にもご出席いただき、本部との絆を深くしていきたいと計画しています。

質問：ところで、支部で会報を発行しているそうですが、どのようにされていますか？

小野田さん：会報は、年3回発行しています。地区ごとの自発的な親睦行事には、20k ¥の補助金を支給し、その報告を会報「(日)日工専同窓会々報」に掲載しています。会報は、平成16年度で42号まで発行済みです。5年後の当番支部になることを念頭において、今のうちから会員へのPR、雰囲気盛り上げ、楽しい企画作りを練っていきたくと思っています。

【取材を終えて】

小野田支部長は、学院の在校生が46期生は64名と小人数であることに、学院の将来はどうなるのか心配とのことでした。この思いは同窓生全員にも、いえることですね。(日)では一年間の日工専受験教習カリキュラムができています。第1次、第2次の事業所内での選抜テストを経て、はじめて日工専の本試験の受験資格が与えられます。これには長い歴史があり、継続されていることは、すばらしいことだと思いました。あと5年で節目の50周年です。きっとすばらしい企画が成功することでしょう。 石原

2005年度同窓会本部へ、引継ぎ行われる

去る4月28日午後3時より、(AS)にて戸塚地区からAS支部への「同窓会本部」引継ぎが行われました。

当日は、学院、同窓会理事、新本部、旧本部各役員の出席で、互いの自己紹介の後、これまでの活動状況の報告と新年度への申し送りがなされました。会議では、冒頭、全体の説明がなされた後は、各担当同士の実務的な引継ぎを行いました。この後は、全国支部長会議での旧年度の活動報告と新年度の活動方針審議を経て、一連の交代を終えます。旧年度役員の方は、ご苦労様でした。新年度役員の方には、今後一年間、宜しくお願いします。



(左は新年度役員、右は旧年度役員)
挨拶する新年度会長、高山氏（12期、機械）



(京専)跡地は、着々と工事が進んでいるが、先日、秦野へ出張の機会があった。その昔、落花生畑と言われた所は、宅地が続き、工場が見通せた場所は既に無い。駅の西口は開発され便利になっていた。東



着々と工事の進む(京専)跡地

口となっている側から踏切りを目指して歩いた頃が懐かしい。世の移り変わりは著しいが、それなりに時代の要求に応じて変化している。秦野の工場の敷地に今も桜の木々が茂っていた。(京専)の坂道にも桜の木々は残っている。毎年春には花を咲かせ、これからも世の移り変わりを見守っていくことであろう。久しくマムシ谷とは遠のいているが、次の会報で様子が伺えることを楽しみにしている。(18期電子 渡辺)



編集後記

久しぶりの新聞作りを楽しませていただき、ようやく任期をまとうこととなった。新聞や週刊誌、電車の中吊り広告、今はホームページも含め掲載される情報は、読めばわかるではなく、見てわかることが大切である。分かり易いことが重要であるとはいえ、前号、今号配慮したつもりでも行き届かなかった点は、ご勘弁頂きたい。今号作成に当たっては、石原理事の熱意に感謝したい。なかなか、多忙で時間を割き難い中、辛抱強く見守って頂き、ご協力含め敬服するばかりで

ある。記事中、在校生の減少や支部の同窓会活動の地域による温度差などを知り、今後の課題は低からざるものと思う。しかし、この情報化社会、便利なものは大いに活用し、せっかくの同窓会、縦横のつながりで磐石なものとなっていくことを期待したい。関西で大きな電車事故が発生したが、叱責するばかりでは前進は無く、なぜ事故が起こったのか、真の原因、要因の追究の大切さを改めて認識した。日立の文化としての落穂拾い始め、先人、先輩諸氏の経験、体験を活かした同窓会活動ができればと思う。

- 日工専同窓会報は、次の社内イントラネット同窓会ホームページ <http://www.gakuin.hitachi.co.jp/ob/dosokai/> から参照できます。
- 特別会員支部は、インターネット上の<http://www7a.biglobe.ne.jp/~hts/>へアクセスください(2005年5月現在)

発行所

日立市西成沢町
日立工業専門学院内
日工専同窓会本部

編集人

広報担当 渡辺英夫

発行人

(日立COM)名古屋喜則